

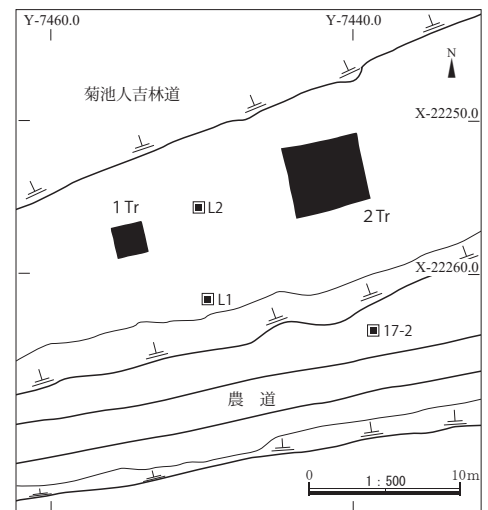
第3章 調査の経過と遺跡の層序

1. 調査の経過

(1) 第2次調査

第1次調査の成果や遺跡周辺の地形、さらに1980年ごろに石器を採集した小畑弘己氏の助言を参考にして、遺跡の中心は、第1次調査の位置よりもやや東であると予想し、今回は林道の南側に調査区を設定した。調査目的は、土壌堆積および旧石器時代文化層の確認である。調査期間は、2015年4月29日から5月6日までの8日間である。

調査では、まず林道と農道に挟まれた南北10m前後の平坦面に2m×2mのトレンチを東西に2つ設定した(第7図)。西方に設けた調査区を1トレンチ、東方のそれを2トレンチと呼ぶ。両トレンチ間の距離は10mである。1トレンチでは、地表下約20cm程度で旧表土が露出し、同約60cmでアカホヤ火山灰包含層(3層)、同約1.3mで旧石器時代の遺物包含層(6層)に到達した。2層除去後に、調査区内から西に広がる落ち込みを確認し、埋土中からは磁器小片が出土した。4層中からは土器、石器が少量出土し、5層からも石器が少量出土した。6層にいたっても遺物の出土量は少ないままであったが、腰岳系黒曜石製細石刃核や剥片が出土するなど、定型石器の存在や石器石材の変化が認められた。7層以下は、調査区南東隅の1m×0.6mのみを10層まで掘削し、土壌の堆積状況を確認した。この後、土層図等の作成および土壌サンプリングをおこなった。2トレンチでは地表下約20cm程度で旧表土が露出し、同約60cmで3層、同約1.5mで旧石器時代の遺物包含層(6層)に到達した。2層除去後に、調査区北西隅で石皿を含む小土坑した。これを残して下層へと掘り進み、4層では、縄文時代早期とみられる土器片や石器が出土した。6層では、1トレンチと同様に腰岳系黒曜石製石器が数多く出土した。特に、調査区の東方に多く分布する様相を示し、石器も碎片の多さが目



第7図 河原第6遺跡周辺測量図



第8図 1トレンチ6層調査風景(東から)



第9図 2トレンチ調査風景(西から)

を引いた。7層に入ると安山岩製石器が2点出土し、ここでも石器石材の明らかな変化が認められた。7層上面検出後、土層図等の記録を作成した。

調査参加者 與嶺友紀也、黄沢民、秦翔平、竹村南洋、松浦正朋、嘉戸愉歩、飯島義広、一本尚之、岡本真也、越知睦和、小畑三千代・岸田裕一、芝 幹、日高優子、船井向洋、松永直輝、松本茂、山野ケン陽次郎、九州文化財研究所の皆様

(2) 第3次調査

第2次調査では、1・2両トレンチでの旧石器時代から縄文時代の4つの文化層の確認、1トレンチでの10層(AT直下層準)までの土壌堆積状況の確認という成果を挙げた。前者では特に、2トレンチにおいて細石刃石器群ブロックが検出された。これらの成果から、第3次調査の目的をこの細石刃石器群ブロックの様相確認と1トレンチでのAT下位の土壌堆積状況の確認という2点にしぼって調査を実施した。調査期間は2017年4月29日から5月6日である。なお、当初この調査は2016年4月～5月に実施する予定であったが、2016年4月14日と16日に発生した熊本地震により遺跡の所在する西原村も甚大な被害を受けたため、1年延期して実施するにいたった。

調査目的にそって、1トレンチでは既調査区の再発掘、2トレンチは東に2m、北に1.5m拡張して調査を実施した。1トレンチでは、2次調査時に10層まで掘り下げた箇所の一部をさらに1m程度掘削した。これにより、層序は15層に達した。この土層については熊本大学教育学部の宮縁育夫准教授に来跡いただき、指導およびサンプリングをしていただいた。なお、10層以下での遺物、遺構の出土はない。

2トレンチでは、2層以下から土器、石器が出土し、特にアカホヤ火山ブロック包含層(3層)下位の4層で礫と遺物が比較的まとまって出土したほか、6層で予想どおり、細石刃石器群ブロックの東方へ広がることを確認した。6層では2次調査時同様に腰岳系や椎葉川産黒曜石を利用した細石刃のほか、小型の剥片、碎片類を多く回収した。前回調査では、炭化物を回収できなかったことを念頭に、さらに入念に探索したところ、石器群ブロックに重なって炭化物の微細片を確認し、いくつかを年代測定分析に備えて回収した。土壌の色調が明るくなる7層上面でも石器が散発的に出土した。これまでの所見同様に石材が安山岩など非黒曜石石材に変化したことも確認した。なお、この2トレンチの北東では、現代の攪乱が7層以下に及んでおり、攪乱中には巨礫がいくつも捨てこまれていた。そのため、この南北2m×東西1mの範囲は6層のレベルで掘削を断念し、調査をおこなっていない。7層上面を調査区全景写真撮影をおこない土層図等を作成し



第10図 2トレンチ4層調査風景(東から)



第11図 2トレンチ写真撮影風景(南西から)

た。5月5日に埋め戻しをおこない、同6日の撤収作業をもって調査を終了した。

調査・整理作業参加者 岡田勝幸、嘉戸愉歩、赤峯由梨、廣重知樹、三浦 彩、安原真衣、栗野翔太、岩熊拓人、斉藤明日香、中野志緒莉、宮浦舞衣、芥川太朗、一本尚之、岩谷史記、牛嶋 茂、大坪志子、岡本真也、越知睦和、 芝 幹、伊達惇一郎、稗田 翔、日高優子、福田正文、古森政二、松永直輝、松本 茂、山口敏幸

2. 調査の方法

第2次調査前に、九州文化財研究所に基準点測量を依頼し、調査区周辺にいくつかの基準点を設けた。今回の調査では、このうち17-2 (X-22263.884, Y-7438.575, H=506.565) と17-3 (X-22281.549, Y-7515.244, H=507.306) 利用して、トータルステーションを利用した地形測量および遺物の取り上げをおこなった。調査区は、基準点を設置した農道よりも一段低い位置に設定したため、これらの基準点とは別にレベル杭を3点設け、これをL1杭 (505.210m)、L2杭 (504.803m)、L3杭 (504.933m) とした (L3杭のみ第3次調査の際に新設)。遺物の取り上げは、基本的にすべて点上げとした。ただし、6層の細石刃石器群ブロックでは、出土した石器に1cm未満の微小なものがかなり含まれていたことを考慮し、第2次調査では無作為に土嚢5袋分、第3次調査では、集中部のほぼ中心に30cm×30cmのサンプリングエリアを設定し、6層の土壌をすべて回収して水洗選別作業に備えた。なお、この水洗選別作業は熊本大学で後日実施し、数点の黒曜石製の碎片を回収した (巻末第12～15表参照)。

3. 遺跡の層序

(1) 地形の現況

阿蘇南外輪山の高畑山 (標高795.6m) から西方に派生する尾根が、標高500m付近でほぼ平坦に近い緩斜面となる。河原第6遺跡もこの緩斜面上に位置する。遺跡の南の尾根が標高を下げ、遺跡付近でほぼ平坦となり、遺跡北方の緑川水系木山川の上流、滝川まで続く。この緩斜面ないし平坦面が遺跡の中心と考えられるが、その一部は菊池人吉林道によって南北に分断されている。また遺跡の南も小規模な農道によって傾斜する現地表が削平されている。なお、この切通し断面を精査したが、遺物等は回収されていない。以上のように、遺跡は南北の林道および農道とで挟まれた幅約15m程度の平坦面と、林道の北側に残存すると考えられる。この平坦面に調査区を設定した (第12図)。なお、調査前の調査付近は、雑草が繁茂して鬱



第12図 調査前の遺跡 (南西から)

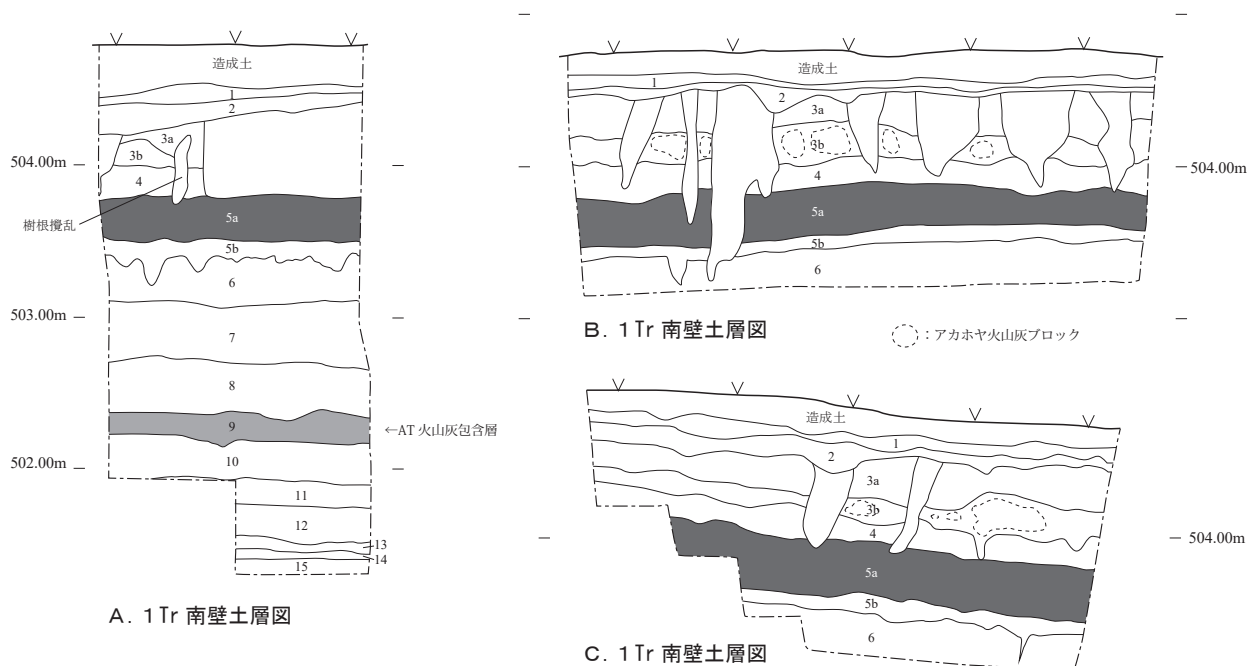
蒼としており、草刈りをおこない調査区を設定した。

(2) 土層と文化層の設定

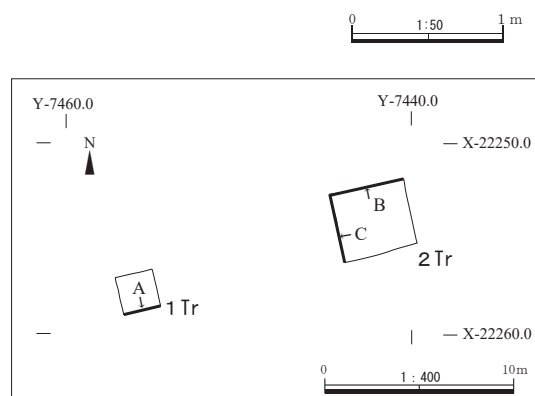
1トレンチ、2トレンチとも、旧表土上に20cmほど現代の造成土がのっている。この造成土を除き、旧表土以下、1層、2層、3層とし、今回掘削した最下層を15層とする (第13図)。1～15層のうち、3層にはアカホヤ火山灰ブロックが包含され、9層にはAT火山ガラスが包含される (宮縁育夫氏のご教示による)。この9層までの層序および火山灰の包含状況は、遺跡の東に隣接する河原第3遺跡の状況 (芝・小畑編2007) と基本的に同じである。

宮縁（2004）によれば、阿蘇周辺地域の黒ボク土（5層）の基底部の年代は約13.5cal kaであり、その下に続く褐色土層（特に7層）は固くしまる産状かた中岳活動初期にあたる噴出物の遠方相と考えられている。一方、9層より下位の状況は両遺跡で異なっている。すなわち、河原第6遺跡では、その下位に暗色帯が約70cm程度分厚く堆積し（巻頭図版2参照）、その下に明褐色粘質土が堆積する。これに対して河原第3遺跡では、9層の下にまず褐色粘質土が約30cm程度堆積し（10層）、その下位に10～20cm程度の暗褐色粘質土層と褐色土層が互層となる。このうちAT直下の褐色粘質土層（10層）に草千里ヶ浜パミス（Kpfa：26.7kyBP）が検出されている。河原第6遺跡ではこの層準が認められなかった。10層以下の掘削を1×1mの狭小な調査区でおこなったため、これが局所的なものである可能性もあり、解決は今後の調査に委ねられる。調査区付近の現地形は、南北方向では南から北に向かって標高を下げる（2mで10cm程度）。東西方向では、東から西に向かって若干標高を下げるが10mで10cm程度とほぼ平坦である。しかし、旧地形では、南北方向の傾斜はほぼ変わらないものの、東西方向では、東方で造成土や5層の堆積が厚いことから6層上面では10mで30cm程度の高低差がある。

1～15層の中で遺物・遺構が認められたのは2層以下である（第1表）。出土遺物やキーテフラとの関



層位	色調	包合物等
1	10YR2/1 黒色粘質土	しまりやや弱く、粘性やや強い。腐食土 →旧表土
2	10YR3/2 黒褐色粘質土	しまりやや弱く、粘性やや強い。黒色土や褐色土がブロック状に入る。
3a	7.5YR4/4 褐色粘質土	しまりやや弱く、粘性やや強い。
3b	7.5YR4/4 褐色粘質土	しまりやや弱く、粘性やや強い。アカホヤ火山灰がブロック状に入る。
4	10YR2/3 黒褐色シルト～粘質土	しまり、粘性ともにやや強い。礫を含まず土器・石器等含む。
5a	10YR1.7/1 黒色粘質土	しまり、粘性ともにやや強い。腐食土。炭化物を含む。
5b	10YR3/2 黒褐色粘質土	しまりやや弱く、粘性やや強い。5、6層の漸移層。
6	10YR4/4 褐色粘質土	しまり、粘性ともに非常に強い。礫含まない。細石刃石器群包含層。
7	10YR6/8 明黄褐色粘質土	しまりやや弱く、粘性強い。礫含まない。石器含む。
8	7.5YR5/6 明褐色粘質土	しまり、粘性ともにやや強い。礫含まない。
9	10YR5/4 にぶい黄褐色シルト	しまりが非常に強く、粘性も強い。火山ガラスを含む。
10	10YR3/2 黒褐色粘質土	しまりが非常に強く、粘性も強い。径2cmの礫を少量含む。
11	7.5YR3/2 黒褐色粘質土	しまりが強く、粘性が非常に強い。礫含まない。ブロック状に崩れる。
12	10YR2/1 黒色粘質土	しまりが非常に強く、粘性も強い。ブロック状に崩れる。
13	7.5YR3/4 暗褐色粘質土	しまりが強く、粘性も強い。径1cm以下の小礫を少量含む。
14	10YR3/4 暗褐色粘質土	しまりが非常に強く、粘性も強い。1cm以下の小礫をごく少量含む。
15	7.5YR5/6 明褐色シルト	しまりが非常に強い。粘性がやや弱い。



第13図 河原第6遺跡土層図

係から、2～3a層、4～5層、6層、7層に、それぞれ時期の異なる遺物が包含されていると考えられる。このうち最上位の2～3a層からは遺物がほとんど出土していないが、石鏃や石皿の出土から縄文時代のうち前期以降のいずれかの時期に位置づけられる可能性がある。また、4～5層はアカホヤ火山灰（K-Ah）包含層の下位であること、押型文土器や無文土器の存在から縄文時代早期に、6層は黒曜石製の細石刃や細石刃核に特徴づけられる細石刃期に位置づけられる。この6層での遺物の出土点数が187点（出土遺物総数237点）最も多く、次いで4～5層の41点となる。7層は未完掘ながら安山岩やチャート为主要石材とする石器群が存在する可能性が高い。これら自然層位の出土状況と遺物群の形態や型式学的特徴を加味すると、文化層の認定についても、ほぼこの自然層位と合致する。後述するが、各層位の中での上下の出土分布差はあるが、明らかに同一文化層に属する石器や遺物が層を違えて出土することはほとんどない。以上のことから、下から1、2、3、4文化層として以下の記述を進める。なお、各文化層の遺物点数および石材構成は第2表に示した。なお、文化層中での遺物の詳しい内訳は次章の中で提示する。

第1表 自然層位別出土遺物点数（上：器種別、下：石材別）

	AH	MB	KN	SC	RF	MF	FL	CH	GT	MC	CO	土器	計
1層	1											2	3
2層							2	1				4	7
3層													
4層				1			5	3	1		2	11	23
5層							7				1	6	14
6層		29	1	1	2	6	49	96		1	2		187
7層					1		2						3
計	1	29	1	2	3	6	65	100	1	1	5	23	237

	黒曜石						安山岩			チャート	象ヶ鼻	砂岩	土器	計
	腰岳	針尾	椎葉川	小国	阿蘇4	阿蘇	西北	岩戸	阿蘇					
1層					1								2	3
2層	1						1			1			4	7
3層														0
4層	1	2			1			1		4	2	1	11	23
5層	1	5						2					6	14
6層	109	1	22	17	3	15	4	12		4				187
7層								1	1	1				3
計	112	8	22	17	5	15	5	16	1	10	2	1	23	237

第2表 文化層別出土遺物点数（上：器種別、下：石材別）

	AH	MB	KN	SC	RF	MF	FL	CH	GT	MC	CO	土器	計
4文	1						2	1				6	10
3文				1			10	3	1		3	17	35
2文		29		1	2	6	50	96		1	2		187
1文			1		1		2						4
計	1	29	1	2	3	6	64	100	1	1	5	23	236

	黒曜石						安山岩			チャート	象ヶ鼻	砂岩	土器	計
	腰岳	針尾	椎葉川	小国	阿蘇4	阿蘇	西北	岩戸	阿蘇					
4文	1				1		1			1			6	10
3文	1	7			1			3		4	2	1	17	36
2文	110	1	22	17	3	15	4	11		4				187
1文								2	1	1				4
計	112	8	22	17	5	15	5	16	1	10	2	1	23	237